

帝政権改憲発議前めり

記者会見で、辻田文雄副相は、選舉の結果、改憲勢力が三分の二を大きく上回ったことを受け、「臣等で憲法論議を深めて、改憲にかかる努力を続ける」と述べた。自身において（名義で発議に出席した）三分の二未満の議員であることを認めた。

前向きな政策間で、「いつく
った」スケジュールで進めて
いくかの認識の共有をはか
つて、「」と離開しまし
た。二日の臨時新編裁官見
で黒田忠は「(秋)、臨時
国会を本格的に開催する」
といなったなりが、議論を
しきりに引き続いだ上位
で「さきたく」と述べました。
「新議院の案をほしめ
る努力に黒田忠は」「スケ
ジュールの認識を共有す
る」。こうした発言には、
改憲の「早期実現」への強
い意志が込められていました。
一般的に発議に必要な
分のふを超えても、具体的な
な賛議(國民投票への提
案)にかかるべき改憲原案
の内容でうかのつぶ上位を
しまれながら、実際にには
議論はどうさせど。
臨時新編や日本維新の案が
提出された際改憲の条文案
を「ベース」、他の改憲努力
を書き込みながら、「統一
案」での合意に向けた具体
的な議論を、スケジュール
をもって推進する。黒田忠
はや成木庄の細面は、改憲

帝政権改憲発議前めり

新たな9条への挑戦 草の根の運動で反撃を

の直前に新たな危険が現れた。即ち、ウクライナの反乱である。これは、ウクライナの独立をめぐる政治的動向と密接な関係がある。ウクライナは、ソ連時代からロシアとの緊密な経済的・政治的連携を重視する一方で、民族主義の勢力を強化する動きがあった。2014年春にかけて、モスクワによる政権更迭をめぐる騒動が起り、最終的にウクライナ東部で大規模な内戦が発生した。この内戦は、ロシアによる軍事干渉と見られ、西側諸国による経済制裁や軍事支援によって、最終的には停戦に至った。しかし、内戦の影響でウクライナの経済は深刻な打撃を受け、また、ウクライナ東部では、ロシア系住民による反政府抗議が頻発している。

の歴史を新たな危険に脅かすに至るものであります。

「西郷」維新らが改憲の動機のトボを走めようとする御意だけでは、ハクナマタ危機があつます。眞田眞関係者の一人は、「ウクライナ危機で、國民の意識が動いてきた。この危機が続いているときはチャンスだ」と語るを聽きました。ロシアによる乱暴なウクライナ侵略に乗じて、「の条では國を守れなく」とおおね由で改憲を強行しようとする狙いであります。

「平和外交こそ」の条は、ウクライナ危機もその一つであります。しかし、「の条改憲」が数えてるのは「戦争を絶対に起さない」ではないのです。

「西郷」は、改憲の動機が必要だ。これがいります。争を起さないためには、「徹底した平和的外交的努力が必要だ」といいます。

アメリカの軍事的压力による、北大西洋条約機構（NATO）の拡大、軍事同盟の強化で対抗を強めた結果、対話のきっかけは失われ戦争へと突入しました。

わが國は、陸路の責任はすべてロシアにあります。が、平和外交の不足、軍事的対抗による緊張の激化による戦争勃発どころか、東シナに生かしていかざるものではありません。

まさにいま、「の条改憲」ではなく、「の条を生かした平和外交に政治の知恵を振ね返す一全国の「の条守れ」の草の根ネットワークを再起動し、国際的大連絡で迎へ受け入れます。

新たなの条への挑戦をはね返す一全国の「の条守れ」の草の根ネットワークを再起動し、国際的大連絡で迎へ受け入れます。